

# 答 申

令 和 2 年 1 月 2 7 日

千葉県ナイトタイムエコノミー推進審議会

今、我が国は、人口減少や少子超高齢化の進展など、社会構造の大きな転換期に直面しております。

そのような中、「ナイトタイムエコノミー」については、来年に迫った東京2020オリンピック・パラリンピックの開催も踏まえ、外国人観光客増加を契機とした、「新たな観光コンテンツ」としての「健全な夜間市場」創出の動きや、先進自治体における様々な取組みが始まっているところであると認識しており、千葉市において、民間事業者が主体となった、新たなナイトコンテンツの創出を行う動きについては、高く評価するものです。

当審議会においては、平成31年4月19日に開催した、第1回審議会にて、支援制度に係る募集要項や審査要領等、募集内容や審査基準について審議をいたしました。

審議内容を反映した募集要領等に基づき、令和元年5月15日から6月28日までの公募を行い、応募のあった6案件につきまして、市からの諮問に基づき、令和元年7月19日に第2回審議会を開催し、書面審査のほか、事業者からのプレゼンテーション及び質疑応答を行い、慎重に審査を行った結果、全件支援するべきであると判断しました。

平成31年度千葉市ナイトタイムエコノミー推進支援事業の一つとして、令和元年8月31日に開催された、昭和の森大花火大会2019の実績報告につきまして、市からの諮問に基づき、令和元年11月5日に実績報告を検討した結果、拡充部分である竹灯籠を使った演出を実施するなど、概ね計画通り実施されたものと認められ、報告された精算額を補助金の確定額とすることが妥当であるものと判断しました。

次に、平成31年度千葉市ナイトタイムエコノミー推進支援事業の一つとして、令和元年10月5日に開催された、千葉みなとイベント「アロハ ホノちば」の実績報告につきまして、市からの諮問に基づき、令和元年11月15日に実績報告を検討した結果、事業収入（出店料）と参加者数が計対比で未達となりましたが、一定の集客があり、参加者や来場者からのロケーションに対する評判が良かったことなどから、今回の支援により新たな夜間のにぎわいの創出や魅力的な景観演出ができたものと認められ、報告された精算額を補助金の確定額とすることが妥当であるものと判断しました。

今回、平成31年度千葉市ナイトタイムエコノミー推進支援事業の一つとして、令和元年11月31日及び12月1日に開催された、ちば富士見屋台横丁の実績報告につきまして、市からの諮問に基づき、令和2年1月10日に実績の書面確認及び市を通じた事業者のヒアリングを行いました。

実績報告を検討した結果、概ね計画通り実施されたものと認められます。同じく支援事業の一つであるYORU MACHIと連携し、同時開催ということもあり、イ

ルミネーションの灯りと、屋台や提灯の灯りが合わさることで、千葉市中央公園周辺が、通常の夜間とは異なる空間に演出されていたことは、非常に有意義であると考えております。

今回、店をうまく回転させることができず、常に満席状態で、屋台に入れない方が多く存在したために、残念ながら8千人の来店者計画に対して、実績は5千人程となりましたが、前回開催時と比較すると、2倍の人数になったこと及び屋台活動への多くの賛同を得ることができ、協賛金を前回開催時の5倍以上集めることができたことは、評価に値します。千葉駅から屋台横丁までの人の流れをつくることができ、それによって、屋台横丁から千葉のまちに人の流れが出来たものと認められます。

なお、各店舗の収支はプラスになり、過去の開催でも無いほどの売り上げを上げた店舗もあり、出店屋台からは好評とのことで、次回以降も出店屋台の確保、拡充に期待ができるものと認められます。

また、次回以降は、今回の補助金により購入した物を活用し、経費を削減する一方、事業収入（出店料等）の増加や開催日数の拡充、さらに協賛金を募ることなどで、補助金がなくても事業を成立させる意思があるものと認められます。

従って、今回、事業全体としては自己負担分を出すかたちになりましたが、次回以降、ハード面での経費削減効果及び単独で事業を成立させる意思を考慮し、事業収入（出店料等）や事業外収入（協賛金等）を増加させ、同規模以上の屋台横丁を定期的に複数回開催することを条件に、補助金交付決定額を減額せず支払うべきであるものと判断しております。

なお、実績報告における補助金精算額は、補助金交付決定額と同額であり、収支決算に不備もないことから、報告された精算額を補助金の確定額とすることが妥当であるものと判断しております。

また、実績報告の検討及びヒアリングの際に出されました、委員からの意見や要望について、事業者がそのような意見や要望等を活かし、次年度により良いナイトコンテンツを実施することにより、地域経済活性化や千葉市における夜の都市景観造りに資するものとなることを希望します。

別表 ちば富士見屋台横丁の計画と実績について

		計画		実績							
1	ターゲット	・千葉駅を利用するもしくは千葉駅を経由する人 ・老若男女問わず（屋は家族連れ、夜は20代～70代）		計画通り実施							
2	運営体制	主催：r-223 後援：千葉市、千葉商工会議所、千葉市中心市街地まちづくり協議会 警備：株式会社MSK		計画通り実施							
3	事業内容	【日時】 11月30日（土）15:00～23:00 12月1日（日）10:00～22:00		計画通り実施							
		【場所】千葉駅前通り（中央公園プロムナード） 千葉市中央区富士見1-15-2 地先 <small>（参考） https://www.google.com/maps/@35.610944,140.1195,16z?hl=ja-JP</small>		計画通り実施							
		【メインコンテンツ】屋台横丁 ・千葉駅前大通りに屋台群を設置 【拡充】 ・店舗拡充（15店舗→20店舗へ） ・千葉で飲食店を出したいと思っている人を募集し、チャレンジ店舗出店（若年層の育成） ・千葉駅から屋台までの導線の歩道及び屋台に、提灯（200個以上）をぶら下げ、千葉駅周辺にいる人をちばのまちに向かう流れをつくる。 ・屋台横丁入口に門を設置し、存在感を出す。 ・千葉県産の料理の提供 中央公園のイルミネーション点灯のタイミングに合わせ、提灯も点灯することにより、屋台もイルミネーションの一部となり、駅からの通りの景観作りをし、特に夜には人の流れが見込まれる。		概ね計画通り、拡充部分を実施 ＜計画からの変更点＞ ・提灯200個→136個 （千葉駅前からの提灯設置は、取り付け方法および経費の関係で、出来なかったため。） ・門の設置→巨大提灯（高さ150cm） （開催場所が道路のため、門を設置することはできないため。） ・千葉県産の料理の提供→千葉の地酒を提供。							
4	収支	収入	事業収入	1,000千円	事業費における割合 16%	1,134千円	事業費における割合 16%				
		収入	事業外収入	200千円	事業費における割合 3%	830千円	事業費における割合 12%				
		支出	ソフト事業	補助金額	600千円	補助対象経費	1,200千円	補助金額	1,119千円	補助対象経費	2,389千円
			ハード事業	補助金額	2,550千円	補助対象経費	5,100千円	補助金額	2,031千円	補助対象経費	4,062千円
			対象外経費			0千円			643千円（消費税等）		
合計	補助合計金額	3,150千円	事業費合計	6,300千円	補助合計金額	3,150千円	事業費合計	7,094千円			
5	来場者数	今回見込み：8,000人（店舗数：20） 過去実績：二日間延べ2,000人（店舗数：15）		実績：二日間延べ5,000人（店舗数：20）							
6	経済効果及び事業効果	・来店者に千葉周辺の飲食マップ配布による周辺飲食店への波及。 ・その日だけの一過性ではなく出店店舗への後日再利用。		概ね計画通り ・色々なメディアでのプロモーション及びYORU MACHIとの同時開催により、一層認知度が上がり、屋台横丁から千葉のまちに人の流れが出来た。 ・店の回転がうまくいかず、常に満席状態で、屋台に入れない方が多く存在したため、8,000人の来店者計画に対して、実績は5,000人程となったが、前回開催時と比較すると2倍になった。 ・各店舗の収支はプラスになり、過去の開催でも無いほどの売り上げを上げた店舗もあった。							
7	景観演出方法	・千葉駅から屋台横丁まで提灯（200個以上）を設置し、誘導兼雰囲気演出 ・千葉駅前大通りに屋台の出店 ・提灯や屋台の暖色系と道路とビル群の寒色系の「灯り」の融合で出る情緒ある歓楽群 ・屋台横丁入口に門を設置し、存在感を出す。		概ね計画通り実施 ・千葉駅前からの提灯設置は取り付け方法および経費の関係で、出来なかったため、誘導および雰囲気演出の提灯を136個設置。 ・開催場所が道路のため、門を設置することはできないので、屋台横丁入口に巨大提灯（高さ150cm）を設置し、門を作成。							
8	スケジュール	【イベント】 ・千葉駅前通り（中央公園プロムナード）許可取り（8月下旬～） ・出店者募集（これから独立希望者含む、8月上旬～） ・出店者、独立希望者審査（9月中旬～） ・機材、設備購入（9月中旬～） ・事業実施（11月30日、12月1日） ・実績結果まとめ（12月下旬～） 【プロモーション】 ・web、ポスター、マップ制作開始（9月上旬～） ・PR開始（9月中旬～）		計画通り実施							
9	次年度以降	・屋台常設を目標とした行政へのアピール ・出店数の増加 ・開催日数増 ・実施地域の増加		概ね計画通り ・補助金によって購入した物を活用し、経費の削減。 ・出店料の値上げや開催日数の拡充、協賛金をさらに募ることで、補助金がなくても事業を成立させる仕組みをつくる。							
10	プロモーション	・千葉駅から屋台横丁まで提灯（200個以上）設置 ・千葉駅周辺の飲食店等にポスター掲載 ・Facebook・Instagramの広告 ・ラジオなどメディアでの宣伝		概ね計画通り実施 ・誘導および雰囲気演出の提灯を136個設置。							